

企業防災 社員の命守れ



想定外を超えて 1

たは行方不明となった。町指定避難場所だった堀切山は支店から約260㍎。当時、行内で働き、指示に従って屋上に行った従業員の田村健太さん(当時25)も犠牲になった。「なぜ支店から走って1分ほどの高台に逃げず、屋上に行ったのか」父、孝行さん(61)と母、弘美さん(59)の疑問はいまだに消えることはない。



津波に襲われた七十七銀行旧女川支店周辺(平成23年3月20日、宮城県女川町)

揺れは、多くの人が職場で働いている平日の午後に襲いかかった。その後、沿岸部には大きな津波が押し寄せ、働く人々をのみ込んでいった。

宮城県女川町の七十七銀行女川支店は海から約100㍎のところにあった。地震後、支店長の指示で従業員13人が2階建ての支店屋上(高さ約10㍎)に避難したが、津波で12人が死亡ま

東日本大震災11年

13面に「復興の大動脈」

東日本大震災の発生から11日で11年。あれだけの揺れと津波が予想できたのかどうかは、裁判をはじめ、あらゆる局面で問われてきた。しかし、それは実際に起き、1万5千人を超える人命が失われた事実は揺らがない。震災だけではない。「天災」には「人災」の側面が見え隠れして、その被害を拡大させる。災害を想定外で片づけず、命を守るためには――。